



11月28日 東地申第16号「2024年度営業関係施策（その1）」についての申し入れ

【御茶ノ水営業統括センター（水道橋駅）】団体交渉を行う！【ダイジェスト】

「これまで出来ていたことが出来なくなる！サービスの低下だ！」施策の中止を求めるも乗降数（コロナ前に比べて8割程度）、IC利用率の高さ（9割以上）、モバイルSuicaにも対応した精算機の設置、お客さまのご利用スタイルの変化という4点をもって実施可能であり、施策を中止する考えはない。 **対立！**

インバウンドのホテル宿泊者に対する対応について

インバウンドの集客・対応は課題であるにもかかわらず、現在の対応より低下した対応しか示せず。

東京ドーム周辺のホテルはインバウンドよりもイベントに来る日本人がメインであるという認識。インバウンド対応は翻訳した音声流すことで対応できる。

これまでのサポートコールシステムの問題点について

順調に推移している。同じ駅での制御であることから大きな問題は発生しない。故障等の不具合は迅速に対応していく。

西口への駆けつけについて

東口→西口への駆けつけはホームを通り約4分と想定。駅長・管理者も含め全体で対応するよう、首都圏本部から現場に伝える。 **確認！**

朝夕の通勤時間帯に有人対応とすることについて

有人時間帯は乗降数と現場からのヒアリング、作業ダイヤの作りの観点からこの時間設定となった。現場の実態に合わせて、有人時間帯の変更をすることは可能である。 **確認！**

指定席券売機の撤去について

現場は施策による撤去だと伝えられている！

発券枚数に基づく撤去でありサポートコールシステム導入とイコールではない。そのように伝わっていることは、首都圏本部から現場への伝え方、現場内での伝え方に課題がある。

イベント時の体制について

確認！

これまでと同様の体制を取っていく。